

平成9年1月24日

21世紀の授業を先取り！

小学生のパソコン授業研究発表会開催

24日、豊島区立池袋第三小学校（豊島区西池袋3-14、校長・山形 紘、児童数390名）で、「自ら学ぶ意欲を育てる～コンピュータの活用を通して～」と題し、パソコン研究発表会が開催された。

同校では、平成7・8年度の2年間、豊島区教育委員会の教育研究校として、パソコン活用の実践研究を進めてきた。同校は、区立小学校では初めてのパソコンルームを完備し、全児童が毎週1回、クラスごとに授業を行っている。授業は市販のソフトばかりでなく、教師が工夫して作ったプログラムも教材として使用。また、高学年の児童によるコンピュータ委員会を設置し、昼休みにもパソコンルームを開放するなど、パソコン活用を積極的に取り組んでいる。

子ども達は、週1回のパソコン授業を楽しみにしている。低学年はお絵かきソフトが人気。高学年の授業では、データベースの検索やシミュレーション機能の活用をはじめ、従来模造紙にまとめていた社会科の研究をデジタル作品で発表したり、電子メール機能を使って意見交換を行うなど、従来の一斉授業では、できなかった一人一人の個性を生かした授業作りができると、先生にも好評だ。

午後1時30分からの公開授業では、

- ①2年生活科「わたしのものがたりをつくろう」では、自分の小さい頃の話のスキャナーで写真を撮り込んだり、お絵かきソフトで絵や文を書いたり、声で説明を入力したり、とコンピュータを鉛筆やはさみと同じように使って電子紙芝居作り。
- ②3年理科「人のからだをしらべよう」では、教師が作成した「骨・関節・筋肉」のデジタル資料を使って体の仕組みを学習。
- ③5年社会「わたしたちの生活と国土」では、「森林はどうなっていくか」をテーマに「電子メール」を使って、お互いの意見を出し合い、考えを広げ深めていく授業。
- ④あゆみ（心障）学級 生活単元「自分を守ろう」～踏切をわたろう～ では、児童が横断する様子をデジタルカメラで撮影しパソコンに入力して、シミュレーション学習。

以上、4単元の「21世紀の授業」が、紹介された。

その後、全体会と課題別分科会が開かれ、数々の実践例が紹介された。最後にまとめとして、指導にあたった十文字学園女子大学社会情報学部教授 井口磯夫氏から「子どもが変わり、教師が変わる」と題する提言があった。

教育関係者の関心も高く、北は北海道から南は長崎県まで約500名の教職員が見学し、自由自在にパソコンを操る子ども達に目を見張っていた。

山形校長は、「パソコンは、これからますます日常生活の中に入り、活用されていくものです。今後は、このパソコンルームをいかした地域の人とのつながりも考えていきたいと思います。」と抱負を語っていた。

詳細：豊島区立池袋第三小学校